

## ホームステイ・プログラムの有効性に関する調査・研究 — 新学習指導要領におけるコミュニケーション能力の育成を中心として —

広島県立賀茂北高等学校 上西幸治

### 1. はじめに

私は1993年7月から8月にかけての一ヶ月間、英語研修付きのホームステイ・プログラム（アメリカ）に、リーダーとして参加した。このプログラムの目的は、まず第一に、外国での滞在を通じて、異なる人々の文化や習慣を理解することである。もう一つの目的として、英語研修が含まれているが故、英語により慣れ親しみ、実践的（日常的）英語力を向上させることがあげられる。私を含め、参加生徒は、その目的を念頭において参加し、十分な成果が上がることを期待した。私は、ホームステイ・プログラムの成果について、多少なりとも研究結果が出せればと思っている。

### 2. 新学習指導要領に見るコミュニケーション能力の育成について

1994年度から、高校現場においても新学習指導要領に基づいて、新しい教育課程の中で実践が行われている。新学習指導要領によれば、外国語科の目標は次の様に明記してある。

「外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深める。」

そして、外国語科の目標は次の三つの要素から成り立っている。

- ①外国語を理解し、外国語で表現する能力を養うこと。
- ②外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てること。
- ③言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深めること。

①は、外国語によるコミュニケーション能力の養成を図ることを意味する。コミュニケーションとは、話し手と聞き手、書き手と読み手の意思の疎通ができることである。

②では、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を目標の一つに取り上げている。コミュニケーション能力はこれを行おうとする積極的な意志や態度によって向上する。コミュニケーション能力は積極的に自分の考えなどを伝え相手の意思などを明確に理解しようとする態度といっしょに養成されていくものである。

③では、「言語や文化に対する関心を高める」ことによって「国際理解を深める」ことが目標の一つであることが示されている。

この目標を念頭に置き、参加生徒の実践的英語能力の上達度と彼らの英語学習の興味・関心や姿勢等を含め、ホームステイ・プログラムの有効性について調査・研究した。

### 3. ホームステイ・プログラムの概要

昨年、15人の高校生を引率して、サンフランシスコでホームステイした。その活動内容は、午前・午後大きく二つに分かれていた。原則として、午前は英語の授業、午後は様々な activities が行われた。週末は host family の家に滞在して、家族の人と会話したり、買い物・旅行などをして過ごした。また、地元の人々の考え・習慣などを学んだ。(Appendix 1)

#### (1) 英語授業の内容

午前中の授業はいろいろな教材を扱いながら、英語の語彙力、英語で発話する力、文法力などを身につけさせたりする授業がありました。その主なものとしては、次の通りである。

##### ① Expressing the activities in English

1. 教師が、プリントを用いて、各場面の説明を、一通り英語で示す。
2. 生徒にその各場面を一英文で説明させる。  
かなり難しい場面もあるので、教師はじっと生徒の答えを待ったり、時にはヒントを与えたりして、指導していた。
3. 数人の生徒を指名し、絵の順序にしたがって、他の生徒の前で、demonstration させる。(この活動は、実際の道具を使ったりするので生徒にもかなり人気があった)

##### ② Learning useful verbs

日常生活の重要な動詞を学習した。次の手順で行われた。

1. 生徒は、教師の発音に倣って、動詞を repeat する。
2. 絵を見させながら、教師が一つの英文を作成する。  
あるいは、教師が一つの英文を提示し、生徒にどの動詞にあたるかを推測させる。
3. 最後に、生徒に一つの英文を作らせる。

##### ③ Dialogue Practice

会話の練習をするもので、次の手順で行われた。

1. 生徒は教師について、repeat する。
2. 教師は、生徒の一人を相手に、模範の会話を示す。
3. 提示した例に倣って、ペアで会話の練習をさせる。

##### ④ Singing songs

英語の歌は、日本でもよく授業に使われるものである。

1. 教師は、英語の歌の内容と背景を説明する。
2. 歌詞を発音し、生徒が repeat する。
3. 内容が難しい場合は、私が日本語で説明する。
4. 歌を聞く。
5. 歌の雰囲気を楽しむながら、全員で歌う。

#### (2) 午後の活動 (Appendix 1)

生徒は、原則として、平日の午後にいろいろな活動を行った。例えば、shopping mall への買い物、水泳、パーティーなどである。一週間に一回、終日サンフランシスコやカーメルなど

を訪れる活動があった。英語の勉強と言うよりも、主に観光の色合いが濃い。この活動のねらいは、地元の人々と交流をしたり、自分の英語で買い物をしたりして、積極的な姿勢を養うこと、つまり、内から勇気を絞り出して、外国の人々と接触して、英語の使用に慣れることであるように思われた。更に言えば、異なる人々の文化・歴史を知る上でも、大変有効な活動であった。生徒の中には、様々な民族の人々が、英語を話しているのに驚嘆している者もいた。生徒にとって、大変よい経験であったと思う。

週末は、各家庭にてホストファミリーと過ごす日々であった。そこでの生活は、生徒が外国の文化・習慣を学ぶ絶好の機会である。それと同時に、ホストファミリーとの接触は、生徒の英語学習に対する意欲を高めたり、英語力の向上につながるものと信じる。

<Appendix 1>

< ITINERARY > July 19 ~ Aug. 16

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	19 Arrival	20 Class Welcome Party	21 Class Shopping	22 City Bus Tour S. F.	23 Class	24 Free Time
25 Free Time	26 Class Swimming	27 Class Bowling	28 Class Shopping	29 City Bus Tour	30 Class	31 Free Time
1 Free Time	2 Class Swimming	3 Class Swimming	4 Class Movie or Shopping	5 City Bus Monterey Carmel	6 Class	7 Free Time
8 Free Time	9 Class Doll- Making	10 Class	11 Class	12 Class Party Prep.	13 Class Party Prep.	14 Free Time
15 Sayonara Party	16 Departure					

#### 4. ホームステイ・プログラムの有効性（評価）

##### （1）生徒の英語を学ぶ姿勢に関して

###### A. ホームステイ研修前

全般的に言って、英語研修付きのホームステイ・プログラムを選んでいるだけに、英語を学ぶ姿勢に関しては、参加をする前から、全員前向きな姿勢をもっていた。

このプログラムを選んだ最大の理由については、以下の通りである。

- |                     |    |
|---------------------|----|
| ①実践的英語力をつけたいから      | 7人 |
| ②アメリカの文化・習慣を理解したいから | 5人 |
| ③外国人と話がしたいから        | 3人 |

②の「アメリカの文化・習慣を理解したいから」を理由に選んだ生徒が、5人もいたことには、少々驚きであった。当然のことながら、第二の点が、一番大切なことであるが、自分独自で、その点を一番重要視して参加する生徒がいたことは、本当に驚きであった。推察するに、EILの代表者が、このホームステイ・プログラムの意義について、その点を強調して説明された後に、この調査を行ったので、その影響もあったのではないかと考えている。

また、英語に対する姿勢（意欲）と大いに関連のある、英語学習（学校の勉強以外）の状況について述べると、以下の通りである。

- ・「英会話学校へ通った経験があるか」という問に関しては、「経験がある」と答えた生徒は、15人中、8人もいた。
- ・「自分で英語の力をつけるために何かしていますか（英会話学校以外）」という問に関しては、以下の通りである。（複数解答可）

- |                  |    |
|------------------|----|
| ①英語の歌を聞いている      | 6人 |
| ②英語のテープを買って聞いている | 5人 |
| ③テレビの英会話番組を見ている  | 4人 |
| ④ラジオの英会話番組を聞いている | 4人 |

複数解答可ということではあるが、参加生徒全員が、「英語を理解し、英語で表現する能力を養う」ために、何らかの英語学習に、日々、努力を傾注していた。また、この研修旅行を通して、ほとんどの生徒（15人中14人）が、英語力の上達を期待していた。

###### B. ホームステイ研修中

1991年に、同じタイプのプログラムに参加した経験に基づいて、研修前に、生徒全員にこの研修旅行に参加するに際しての心構えを、プリントして配布しました。その中で、私が一番強調したかったことは、英語の学習に際しての個々人の心構え、及び授業に臨むルールである。つまり、過去の反省も踏まえ、授業の中では、「Don't speak Japanese!」の姿勢を、貫徹する必要性を深く認識して欲しいという思いであった。その結果は、研修後の彼らの英語力や英語に対する態度に出てくると信じたのである。

次に、実際の研修中の英語に対する姿勢について述べたい。「ホームステイの概要」の章で、すでに記述したように、このホームステイ研修の内容は、次のように大きく三つに大別できる。その三つとは、①「英語の授業」②「授業以外の活動」③「ホストファミリーとのふれあい」で

ある。どの活動も重要な位置を占めているのであるが、「英語力」の観点から見れば、このプログラムの中心は、やはり英語の授業である。午前中だけとはいえ、日本の一般的な英語の授業とは異なり、日常生活で実際に使える動詞や名詞を中心にした、英語会話重視の授業で、生徒自身に意欲をもたせ、考えさせ、英語で発話させる授業の連続だけに、効果があったと信じる。

さて、①「英語の授業」における生徒の姿勢について述べる。アメリカ滞在当初は、彼ら自身の中に緊張感もあり、全員が真剣な眼差しで、英語の授業に取り組んでいた。しかし、徐々にそこでの生活に慣れるにつれて、私語（日本語）が多少ではあるが、見られるようになった。この様なわずかな憂いもあるにはあったが、全般的に見れば、彼ら自身の本来の目的を目指して、真剣に授業に取り組んでいた。アメリカ人の英語の先生も、頻繁に「Good!」とか「Good student!」と言って、生徒を賞賛していたのは、印象的であった。確かに、生徒は、自分自身の英語力向上のために、真剣に授業に臨んでいた。

Speaking に関連した生徒の姿勢について、少し触れたい。ホストファミリーとコミュニケーションを図るために、多くの生徒が、いろいろな苦勞を強いられた。「アメリカ滞在中で、一番困ったことは何ですか」という問に対して、一番多かったのが、「英語を話すのに困った」である。次に、「食事に困った」、「外国人の言っていることが理解できない」、「家庭で話す話題がない」、「習慣が違うから困った」の順であった。

その様な経験をしたが故、もう一つの問「英語の学習は、何から始まると思いますか」に対して、「とにかく話すこと」と答えた生徒が、7人と一番多かった。このことは、滞在中、生徒が意思疎通を図るのにととも苦勞を強いられたことを物語っている。

別の問「話す力がついたと思いますか」に対しては、「ついたと思う」と答えた生徒が、15人中わずか4人しかいなかった。

以上のことから、Speaking に関しては、一ヶ月のホームステイ研修は、生徒の期待に沿うに十分な成果を上げているとは言いがたい。しかし、外国人とコミュニケーションする際の抵抗感は、一人を除いて、全員払拭されたという事を見逃してはならない。とりわけ、アメリカ滞在中一週間までに、二人以外全員が（最初から抵抗感がなかった生徒も含めて）、外国人と話すのに、抵抗感がなくなっていた。この経験は、彼らが英語でコミュニケーションを図る姿勢に大きい変化を与えたと信じる。一般的によく言われることだが、日本人は、外国人が話しかけたり、近づいたりすると、逃げて行ったり、黙ったりする傾向がある。今回の研修を通して、彼らが英語をコミュニケーションの手段として、積極的に使おうとする姿勢を身につけ、これまでの「逃げの姿勢」を除去することが可能になった。つまり、この研修が、外国人とスムーズに接触することで、英語はコミュニケーションするための一つの手段であるとの認識を、深めさせてくれたと言える。

## (2) 参加生徒の英語能力の上達度 (Listening Ability に焦点を当てて)

(1)の章で述べたように、生徒は何らかの形で、英語の力をつけたいという思いが、かなりの比重を占めている。この様な参加生徒の意識を踏まえ、実際に彼らの Listening Ability の上達度に焦点を当ててみた。

アメリカに到着して、最初の授業と4週間経過した最後の授業の中で、同じ Listening Test を実施した。その結果を比較して見ると、全般的に参加生徒の Listening Ability にかんがりの上達が見られた。(Appendix 2)

全体としては、平均点が最後のテストでは、最初のテストと比較して、およそ9点(49.7点から58.6点に)上がっている。つまり、参加生徒の大半の者が、Listening Ability の上

達が見られた。この要因に関して、考察して見ると、以下のことが考えられる。

- ①英語の中で、生活していた。つまり、一日の大半の時間を英語にさらされていた。
- ②英語力を上達させたいという意欲（積極的な姿勢）が見られた。
- ③英語教師の指導の仕方がとてもよかった。

（生徒に自信をもたせ、意欲を高める指導 — 賞賛、ヒントの与え方、我慢の指導）

③の英語教師の指導に関連することであるが、生徒自身、午前の授業に関して、15人中8人が、「授業が、聞き取りの力の上達に一番効果があった」と答えている。（Appendix 3）彼ら自身、身体で、Listening Ability の上達を感じ取っている。前述した数字と共に、彼らの感覚からいっても、この研修が、参加生徒の Listening Ability を向上させるのに、十分効果があったものと言える。

ここで、特に聞き取る力の上達が大きかった数人の女子と、下がった二人の男子の相違点について考察する。私が観察した中で、「英語に対する意欲（姿勢）の差」が大きかった。最初は、全員が英語学習に対して、相当な意欲を持っていた。しかし、日が経過するにつれて、徐々にその意欲に差が現れ始めた。その端的な例が、授業中の態度（姿勢）である。

上達しなかった生徒は、授業中、日本語を使いたがる傾向が、滞り途中から見られ始めた。日本人同士が顔を合わせると、当然の事ながら、Mother Tongue を使用するのには、ある意味においては仕方のないことである。しかし、もし彼らの意識の中に、このプログラムの参加の目的を常に意識しているなら、容易に日本語に飛びつくことはしないと考える。この問題は、彼らの英語力と関わってくる問題でもある。生徒が、英語で意思疎通がかなりできたり、あるいは基礎的英会話力があるならば、日本語に頼る必要もないと考える。自分に厳しく対処するならば、英語の使用を優先させることができる。日本を出発する前に、英語研修、特に授業を受ける姿勢について、プリントを配布し、それに関する忠告をした。上達した生徒は、それを忠実に守り、努力を傾注していた。

個々の生徒は、英会話力等をつけるために、不断の努力をしていることは、前述した通りである。とはいえ、生徒は、滞在中大なり小なり苦勞を強いられている。その苦勞は、生徒の英語力向上につながるものである。その場面場面で、生徒がいかにしてその苦境を乗り越えていくか、が大切である。これは、英語の意欲や基礎的英会話力と関連があると言える。結果的に、上達した生徒は、自分の意図することが通じなかったり、相手の言うことが理解できなかったりすれば、相手に繰り返しを求めたり、Body Language を使ったりする等のコミュニケーション方略

（Communication Strategies）を使って、自分で何とか切り抜けようとする姿勢が、継続的に見られた。逆に言えば、上達しなかった生徒は、それを持続できなかったのである。つまり、最初は、聞き取ろうと努力していたが、やがてそれを断念したり、その状況を回避する方向へ走り、日本語での談笑や観光を楽しむことが中心になっていったのである。ある意味では、外国での生活において、各人の英語に対する意識の差が、聞き取る力の上達に現れたと言える。

### （3）言語・文化への関心の高まりとその理解に関して

参加生徒全員が、このホームステイ・プログラムはよかった（効果があった）と答えている。この単純な答えであるが、英語の力をつけるのに、勉強になったという生徒もいれば、いろいろな貴重な経験をしたこと自体よかったと答えた生徒もいる。

しかも、全員が「もう一度アメリカに行きたい」と答えている。中には「もう一度勉強をやり直して行きたい」と言った生徒もいた。英語の学習に関しては、約半数の生徒が、「英語の学習は話すことから始まる」と答えている。つまり、今回の研修を通して、意思疎通を図ったり、お

互いに相手を理解したりするのに、随分苦勞したがために、コミュニケーションにとって大切なものは、話そうとする積極的な姿勢だ、と強く感じ取ったと言える。(Appendix 3)

外国の人々の文化や習慣への理解に関しては、各自が貴重な体験をした。「今回の研修で困ったことは何か」という問に対して、前述したように、コミュニケーションに関わる部分を除外すれば、当然のことながら、実際の生活における苦勞が大きかったようだ。食事に困った、入浴・睡眠等の習慣が違うので困ったなど、それぞれのホームステイ先で、各々の体験をしたようである。生活習慣の異なる人々と寝食を共にすることによって、日本の文化や習慣と比較しながら、生徒は、お互いの相違を見いだしていったのである。つまり、文化的相違を意識しない状態から、表面上の違いだけでも意識する状態、あるいは、文化的相違を強く意識する状態まで達したのである。

この様な実体験を通して、彼らは、自分とは異なる生活習慣・文化をもつ人々が、存在することを肌で知り、お互いに理解し合うことの大切さを感じ取り、真の国際人になるための第一歩を踏み出したと言える。

## 6. おわりに

今回のホームステイ・プログラムに関する調査は、参加者の英語力(特に、聞く力)の上達度と彼らの英語に対する姿勢に、焦点を当てて行ったものであるが、十分な研究とはいええない。

その第一の理由は、調査対象者の人数が少ないことである。対象者をもっと多くし、より客観的で、一般性のある研究内容になりうるものにすべきである。

もう一つは、個々の生徒について、もう少し綿密な調査をし、研究を深めるべきであった。これらについては、今後、更に研究を深めていきたい。

さて、聞く力の所で述べたように、一ヶ月という短期間ではあるが、地道に、積極的に努力すれば、力はつくものであると、今回の調査で、改めて強く感じた。英語学習に関してよく使われる言葉であるが、「Practice makes perfect!」とはまさに的を得ている名言と言える。生徒自身、積極的にコミュニケーションすることの重要性を強く感じ取ったのではないだろうか。

この研修旅行を終える直前に、口頭で生徒に尋ねたところ、かなりの生徒が「勉強をやり直して、もう一度来る」と発言したのには、私自身驚きもし、感心もした。この研修旅行が、いかに参加者に対して、インパクトが大きいものであったかを物語る発言と言えるであろう。英語研修のあるホームステイ・プログラムは、参加者にとって、行動する範囲は限定されているものの、学習指導要領の目標に十分に答えうるものだと確信する。

この一ヶ月という短い滞在を通して、外国人の文化や習慣を学んだことで、英語に対しての関心を高め、英語学習に更に意欲を燃やすようになれば、このプログラムの効果として、これに優るものはないと確信する次第である。

## <参考文献>

- 文部省 「高等学校学習指導要領解説 外国語編」 教育出版、平成元年 11-12  
柳 道郎 「ホームステイ ハンドブック」 AEC (American Education Connection)  
平野 絹枝 「コミュニケーションにおける「態度」の指導と評価」『現代英語教育』  
1994年6月号 12-13  
古田 暁 監修 石井 敏、岡部 朗一、久米 昭元、平井 一弘 共著  
『異文化コミュニケーション キーワード』 有斐閣、1990年、56-57、92-93  
一橋出版編集部 「ヒアリングテスト 初級編・中級編」 一橋出版

<Appendix 2>

LISTENING GRADE

	M/F	First	Last	Prog		M/F	First	Last	Prog
1	M	4 4	2 8	-16	9	F	7 6	8 4	+ 8
2	M	3 2	4 8	+16	1 0	F	6 0	7 6	+16
3	M	4 0	3 2	- 8	1 1	F	5 2	5 6	+ 4
4	M	4 8	6 0	+12	1 2	F	5 6	6 8	+12
5	F	3 6	4 4	+ 8	1 3	F	5 6	6 0	+ 4
6	F	4 4	5 6	+12	1 4	F	4 8	4 8	±0
7	F	4 0	6 8	+28	1 5	F	6 0	-	-
8	F	6 4	9 2	+28					

\* No.15 absent from the last class

AVERAGE

M/F/Total	First	Last	Progress
Male	4 1 . 0	4 2 . 0	+ 1 . 0
Female	5 3 . 2	6 6 . 2	+ 1 3
Total	4 9 . 7	5 8 . 6	+ 8 . 9

<Appendix 3>

<研修後のアンケートまとめ> 1993年9月 (参加者 15人)

1. 英語力について

(1) 自分の聞く力がついたと思いますか。

ついたと思う 8人 つかなかったと思う 7人

(2) 話す力はどうですか。

ついたと思う 4人 つかなかったと思う 11人

(3) 4分野(読む・書く・話す・聞く)のどれを伸ばすのに最も効果があったと思いますか。

読む力 0人 書く力 1人

話す力 4人 聞く力 8人

(4) 外国人と接する(話す)のに最初は抵抗があったかもしれませんが、どのくらい経って抵抗がなくなりましたか。

最初から抵抗はなかった 4人 最後の方でなくなった 1人

1週間以内でなくなった 7人 いまだに抵抗がある 1人

(5) 英語の学習は何から始まると思いますか。

とにかく聞くこと 2人 とにかく話すこと 7人

とにかく読むこと 1人 単語を知ること 4人

2. 午前の英語の学習では何がよかったですか。

基礎的動詞(VERB LIST)を使っの英作文・会話練習 6人

UNCLE SAM の日常の行動・出来事 4人

カントリーミュージックを歌う 2人

3. 今回の研修旅行は自分にとってよかった(効果があった)ですか。

YES 15人 NO 0人

4. もう一度行きたいですか。

YES 15人 NO 0人